

# 伊勢・三河湾貧酸素情報 (R1-8号)

令和元年7月25日

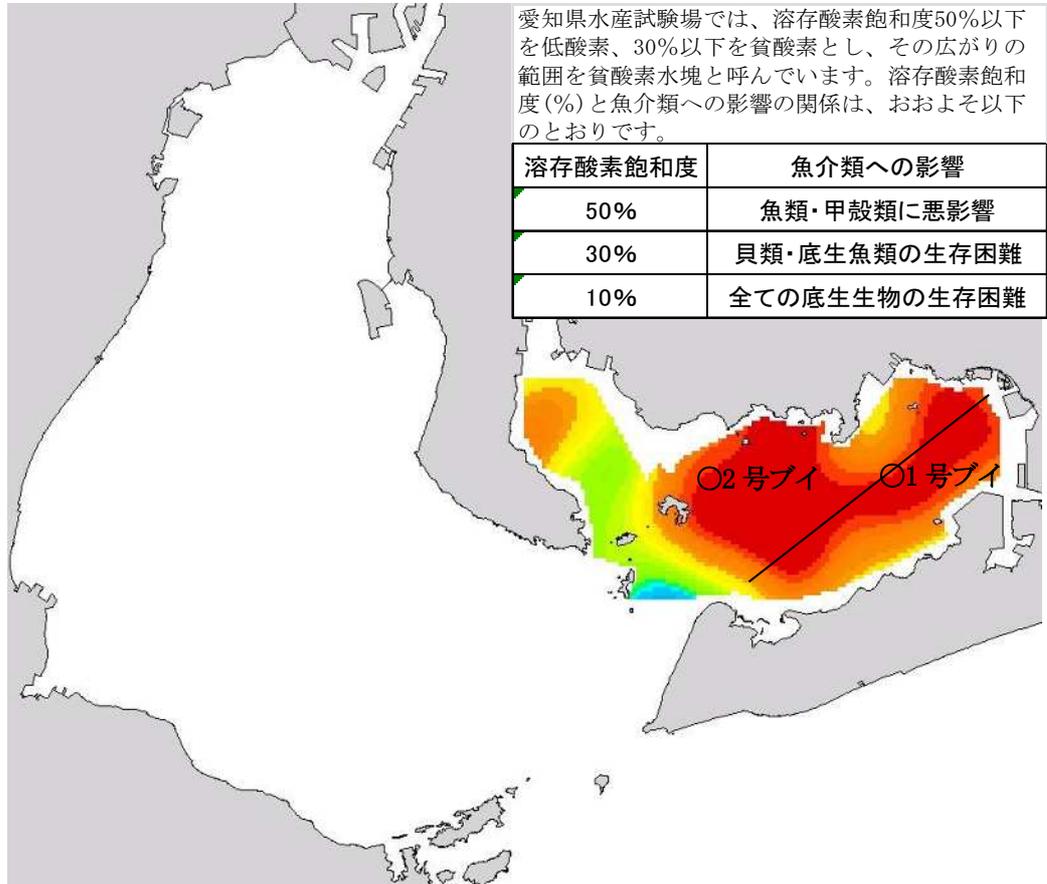
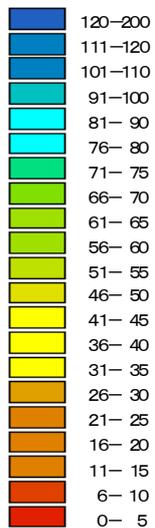
愛知県水産試験場 漁場環境研究部

令和元年7月23日に三河湾において貧酸素水塊の調査を実施しました。その結果は下記のとおりです。

愛知県水産試験場では、溶存酸素飽和度50%以下を低酸素、30%以下を貧酸素とし、その広がり範囲を貧酸素水塊と呼んでいます。溶存酸素飽和度(%)と魚介類への影響の関係は、おおよそ以下のとおりです。

溶存酸素飽和度	魚介類への影響
50%	魚類・甲殻類に悪影響
30%	貝類・底生魚類の生存困難
10%	全ての底生生物の生存困難

溶存酸素飽和度(%)



湾口

三河湾奥

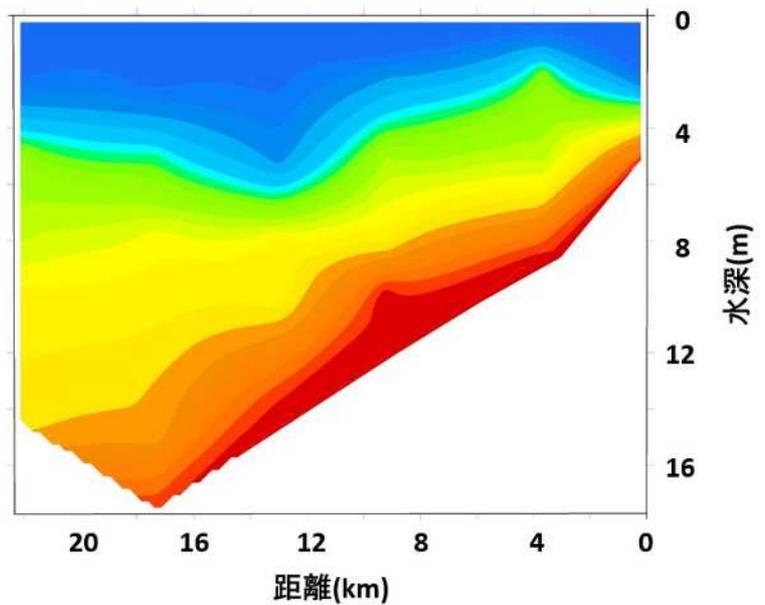


図1 三河湾 (7月23日) 底層の溶存酸素飽和度の分布 (上図) 及び上図直線部分の鉛直分布 (下図) (愛知県「へいわ」調査)

### 三河湾

7月23日の調査結果を図1に示しました。前回調査（7月9日）に比べ、渥美湾全体に貧酸素水塊が拡大していました。知多湾西部では貧酸素水塊が形成されていました。

三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ（蒲郡沖）のデータを見ると、底層では溶存酸素飽和度が10%以下と低く推移している様子が観測されています。また、2号ブイ（吉良沖）のデータを見ると、7月20日から底層で貧酸素の層が厚くなっている様子が観測されています（図2）。

今後、台風が発達すると予想されている熱帯低気圧の動向によっては、苦潮が発生する可能性があります。

表1 調査時の水温・塩分

	水温(°C)	塩分
表層	25.8~28.3	8.8~27.9
底層	22.2~23.5	31.1~32.3

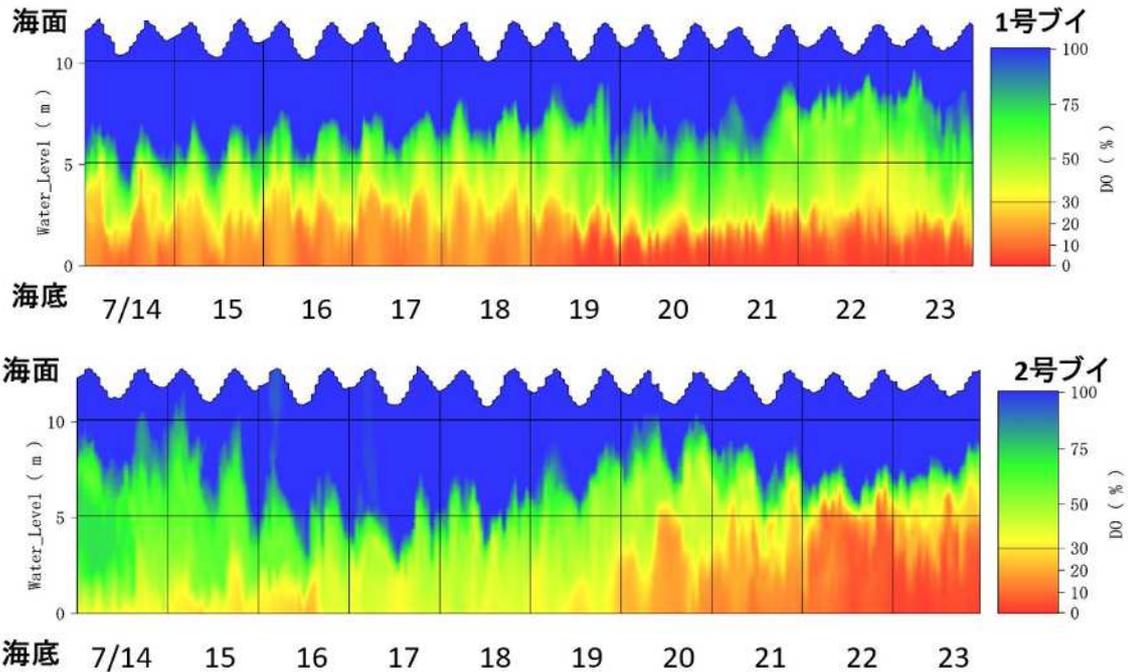


図2 溶存酸素飽和度（DO）の経時変化（上段：三河湾海況自動観測ブイ1号ブイ、下段：2号ブイ）

### 参考

前回調査時の底層の溶存酸素状況（図3）

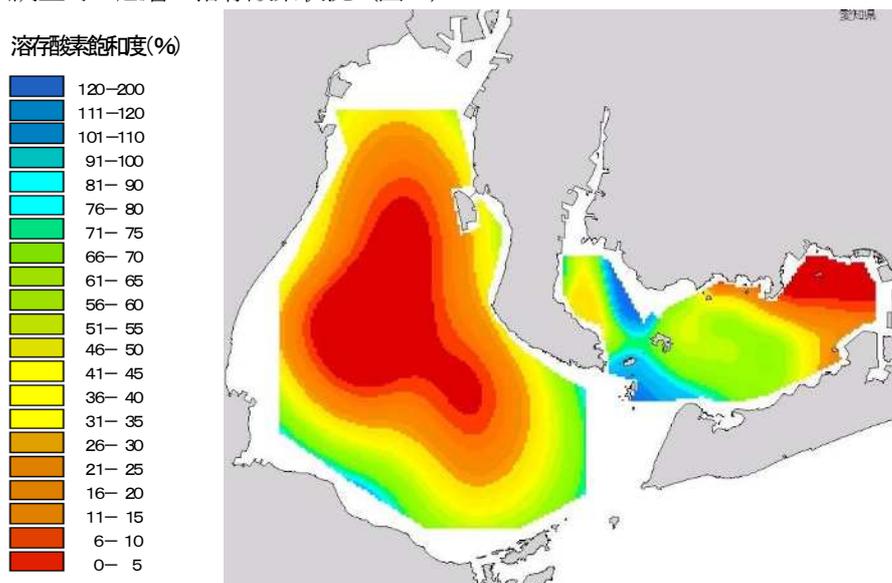


図3 令和元年7月17日（伊勢湾）、7月9日（三河湾）